

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990700052		
法人名	社会福祉法人 祥水園		
事業所名	グループホーム 慈泉庵		
所在地	奈良県五條市野原東6丁目2番48号		
自己評価作成日	平成29年9月20日	評価結果市町村受理日	平成29年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成29年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が、個人個人、ご自分のペースで生活を楽しんでいただくこと。DT活動を行っており、NHKに取り上げられたこともあり、また、周りが自然に囲まれているため、散歩や、当庵の畑での野菜づくり、花の栽培、犬のお世話等、個人のご要望を大切に、充実した生活を送っていただくことです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後5年の新しい事業所です。自然豊かで高台の広大な系列施設の敷地に事業所があります。春先には梅の花や桜の花が咲き誇り、利用者や隣接する施設の方、近隣の方々も花見に訪れます。梅の実からは梅干し、梅シロップ等を利用者の方々に作られて、生活の活力にもなっています。また、敷地内の畑では季節の野菜を育てられ、みんなで調理して食卓に並べ季節を味わっています。運営推進会議は2ヶ月ごとに行われ、毎回自治会長や民生委員などが出席し、色々なことをざっくばらんに話し合い、運営や地域との交流に活かされています。また、入居時にはターミナルケアについても説明され、その人なりの終末期を迎えられるような体制づくりに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識づけ、その日の仕事に、生かしていくために、毎朝、朝礼時、復唱している。	理念を朝礼時に復唱し、職員全員に浸透させて日々のケアに活かされています。また、玄関正面には理念が掲げられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1度運営推進会議に、自治会長様や民生委員様、隣接の、同法人軽費老人ホームの皆様が来られ、ご利用者やご家族と交流を図っている。	春の花見、夏の盆踊り、花火大会見物、秋まつり等には地域の方々も来られ、交流されています。	立地的に民家が少なく難しい面もありますが、事業所から出かけて地域の方とふれあう機会を持たれる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた時等にグループホームについての説明をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の行事、運営に対して、ご質問やご意見を頂き、施設の現状を説明し、理解していただいている。または改善をしている。	今年から開催日を日曜日にして、家族等が参加しやすくなった結果、毎回多くの出席者があり、意見も積極的に出され、サービスの向上につながる会議になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して実情や取り組みを伝えて連携を図っている。	随時に市と交流し、協力関係を築くように努力されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については理解できている。セイフティーマネジメントを行っている。日中は玄関の施錠は行っていません。	身体拘束については職員研修を行い、弊害について十分に理解されています。玄関は夜間以外は開錠し、利用者もゆったりと過ごされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修で、尊厳等について学び、言葉使いや態度等、気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	公正証書を作成している方がおられるため正しく支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけ、丁寧に説明を行い、納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席できないご家族に対しては、案内書にアンケート用紙を添付しており、当庵に対してのご意見を頂いている。	運営推進会議の案内にアンケート用紙を入れたり家族の訪問時に要望を聞いたりしてサービスの向上に活かされています。	家族の安心につながり信頼関係を築いていくために、利用者の日常の紹介や事業所の行事等を紹介する「事業所だより」等を積極的に発信して行く事を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を開催し、運営や処遇に関して、職員の意見や提案を出してもらい、検討し反映させている。	全体会議だけでなく、日常的に職員間で情報交換し、運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績に重点を置き、評価をすることでやる気、意欲の向上につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加や、資格取得を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームが、3か月に1度、協議会を開催し、勉強会と相互訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームで生活していく上で、何が問題なのか、ご本人やご家族のお話をしっかり聞き、安心して生活できる環境を作っていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、グループホームでの生活の様子を説明し、不安に感じることをしっかりお聞きし、安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の情報と、実際の動きを確認しながら、環境の変化に注意をし、自立に向けた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	梅干し作りやジュースづくり等、ご利用者と一緒に、分量等お話ししながら、一緒に作業を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はご家族ご本人と共にこちらの暮らしぶりをお話ししたり、お部屋で過ごして頂いたり、また外出や外泊も自由にして頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に隣接する軽費老人ホームに入所されていた為、時々面会に来られてたり、行きつけの美容室へ定期的に行かれています。	以前に入所されていた施設との交流や、行きつけの美容院への外出支援をされています。また、電話・手紙等も利用者から要望があればその都度対応されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の飾りつけや、収穫した野菜を整えたり、共同作業をしていただく機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され、新たな施設に入所されても、ケアの相談を受けた場合、積極的に情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の思いや要望等を聞く様になっている。あまり会話が無い方はご家族の情報や、ご本人の表情、態度で思いを受け止めるように努めている。	利用者本人からや、入居時の聞き取り、家族との面会時の情報も含めて、利用者の思いの把握に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族や担当のケアマネから情報を得ている。ご本人にも面会し、情報を得る。入所後は、ご本人の生活歴や嗜好等を聞き、自分史の作成に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で常に状態を把握し、ご本人が穏やかに生活出来るようにしている。ご本人の意思に沿えるよう、希望される過ごし方に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題があれば、その都度カンファレンスを開き、問題点を把握し、職員全体でケアに取り組んでいる。又、面会等でご家族の意向もお聞き、ケアに繋げている。	介護計画は半年に1度見直しされていますが、家族の要望や状態変化があれば臨機応変に見直しされています。職員間でも日々のかかわりの中で情報共有し、変化があればすぐに全職員で対応されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の記録チェック表に、身体の状態、食事、薬・点眼の服用、排泄等の記録している。1日3回の申し送りをし、常に職員同士情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物の要望があれば、職員が付き添い買物に行っている。緊急性の受診の場合は、職員が送迎、付き添いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する軽費老人ホームのオープン喫茶に出かけ交流を図っている。また美容室や地域の医療機関を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が個別の往診に来て下さり、健康管理を行っている。主治医、ご家族、職員との情報交換を常に行い、ご利用者に異常が見られた場合は、直ぐに連絡し、受診も可能である。	基本は利用者の以前からの主治医への通院ですが、協力医療機関が主治医の場合は月に2～3回の往診があります。緊急時には協力医の往診体制があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と相談、協力しながらご利用者の健康管理を行い、異常があれば直ちに主治医に相談し、指示を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、かかりつけ医の紹介状より情報をお伝え、し医療スタッフや地域連携室と、密に情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ターミナルケアについての説明を行い、また、状態の変化が見られた場合、主治医、ご家族と、今後の方向を話し合っている。	入居時に同意書をもらい、終末期の対応について家族と話し合いを持たれています。実際に事業所で看取りを行った経験もあり、職員の対応力もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で嘔吐の物処理、喀痰吸引、AEDの研修を行っている。又、地域が実施している救命救急講習を職員全員が受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(日中・夜間想定)を実施している。避難訓練の報告は、運営推進会議で行っている。	利用者も参加して、消防署の立ち合いで避難訓練が行われています。非常食は屋外の倉庫に保管されています。	災害時に備え協力体制を構築されるよう、自治会長、民生委員をはじめ地域住民の参加への働きかけを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で尊厳と倫理についての研修を行っている。一人一人に合った丁寧な言葉掛けで対応している。	丁寧な言葉かけや温かみのある対応をされており、利用者の尊厳と倫理に徹したケアに取り組んでおられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の思いや要望、訴え等に耳を傾け、支援している。情報は職員同士共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間は大体決まっているが、その日の状態や気分で、食事の時間等を本人のペースに合わせている。利用者一人一人の思いを大切に、日々過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時と入浴後に着る衣服を、利用者と一緒に選んでいる。月一回美容師が来て、カットして下さる。カット日以外でも希望に応じてカット可能。馴染みの美容室への支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に畑で季節の野菜を作り、収穫した物を味噌汁の具や漬物、余暇活動、行事、おやつ作りに活用している。野菜を洗ったり、切ったり、出来る事を手伝って頂く。又、ご利用者に教えて頂き、漬物作りをしている。	みそ汁の具材を調理したり、畑でできた季節の野菜で鍋料理を楽しむなどして、全員で「食」を楽しんでおられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立て、野原ダイニングが調理した、バランスの良い食事を毎食提供している。AM3回、PM3回程、嗜好に合わせて水分を提供している。利用者の状態に応じて食事形態を変更して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の訪問が週2回あり、自歯や入れ歯、舌下の状態、噛み合わせ等を診て頂く。不具合があればDrが月1回往診に来て下さる。毎食後口腔ケアをし、磨き方や歯ブラシの種類は歯科衛生士より、指導を受けて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを昼夜記録して、トイレ誘導を行っている。自立の向け、リハビリパンツ、尿取りパットの見直しをしている。	利用者の排泄パターンに応じた支援をされています。日中は常に目配りして、利用者の体調を見ながらトイレ誘導をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルト、ヨーグルト、冷水を朝に提供し、腸の働きを活性化、改善して自然便に繋がっている。出来るだけ下剤を服用せずに、自然成分が特徴のアロエを進めている。又、散歩やレクにも力を入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は一応決められているが、週2～3回入浴して頂く。希望があればその都度入浴して頂く。入浴拒否の方は、毎日声掛けをして入浴を進めている。	入浴状況をチェックして、週2～3回の入浴支援に努められています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分の状態に応じて、ベッドで休んで頂く。日中の散歩やレクで、夜間の安眠に繋がれる様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の緊急ファイルに薬剤・目薬の説明書を閉じている。常に主治医、薬局との連携を図り、副作用や取り扱いに注意している。個々の薬ケースに薬を保管し、毎食後や就寝時に確実に服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や嗜好、希望等を聞きしている。又、家族様の面会時に話を聞かせて頂く。趣味や希望を生かせるような支援(畑で野菜作り、洗濯たたみ、調理、花の世話、買物、外食等)をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい所や食べたい物等の希望を個々に聞き、又、家族様にも話を聞いて、近隣周辺の散歩から県外の外出まで、希望に応じて出来るだけ叶えられるように支援している。地域の祭りやイベント等にも参加している。	希望があれば家族も誘ってドライブを楽しまれています。また、広大な園内での散歩も日常的に出かけられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として園預かりはしていませんが、本人から要望があれば、家族様と相談して自己管理が出来る場合は小銭のお金を持って頂き、支払いをして頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の支援をしている。手紙は書ける方は書いて頂き、代筆が必要ならば代筆させて頂く。ポストへの投函は、職員と一緒に付き添いをしている。行けない場合は、職員が代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日フロア、トイレ、玄関等の掃除をして清潔保持に努め、毎朝窓を開けて換気をしている。室内の温度も調整し、よしずを使用している。日付や時間が分かるように、カレンダーや時計を設置。毎月利用者と一緒に季節に合った飾り付けをしている。	開所後5年で、事業所内は新しく清潔感のある気持ちのよい空間となっています。採光、室温の管理も程よくされ、利用者はリラックスして共用フロアでくつろいでおられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテーブルと椅子が設置されていて、テレビを見る、会話を楽しむ等されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとクローゼットは設置されているが、カーテン、布団類、衣装ケース、タンス、机、カーペット、写真、時計等自宅で使用していた物を持って来て頂く事は可能である。又、テレビや冷蔵庫も相談の上可能である。	馴染みの家具等を持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるように支援されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、脱衣所、浴室等に手すりを設置し、表示にもわかりやすいように工夫している。		